猪高の森自然観察だより　4 月号

開催日時：2023 年 4 月 23 日（日）
天候：晴　　気温：最低 8.9℃、最高 23.1℃（名古屋に於いて）
テーマ：カエルの子と春真っ盛りの花と虫たち
参加者構成:一般　21名（内 NACS-J 指導員3名、小学生1名）
コース予定:森の集会所　→　塚ノ杁池堤体　→　畑　→　森の集会所

4月は、大変気候の変化が激しく、最高気温が 25℃以上の夏日があったかと思うと、3月並みの日があったり、体の不調を訴える人が多くいたとのこと。（春バテと言うそうです）
4月から始まった NHK の朝ドラ「らんまん」は、「植物形態学の父」と呼ばれている“牧野富太郎博士”をオリジナルストーリーとして紹介しています。
この時期は、2週間たてば咲いている花々が代わってしまうほど、変化の激しい季節でもあります。虫たち、花たちを参加者の方々と探しながら観察会を行いました。
（観察会の内容以外の記事、画像も載せています。）

○牧野富太郎博士ってどんな人？

植物学に携わっている人は、必ずこの人の名前にどこかでぶち当たります。図鑑であったり、生き物の正式名称の学名であったり、そんなひとです。

1862 年現在の高知県高岡郡佐川町に生まれました。幼い頃から植物に興味を持ち、独学で知識を身に着けていきました。「雑草という草はない」の名言を残し、94 才でその生涯を閉じるまでに植物標本は約 40 万枚と言われ、新種・新品種につけた学名は 1500 種以上とのことです。

日本の植物分類学の基礎を築いたひとりとされています。

皆さんがこの春によく見つけられる「オオイヌノフグリ」はこの牧野博士が命名した花です。（この頁左上の画像です。）

牧野博士については
https://www.makino.or.jp/dr_makino/　や
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%89%A7%E9%87%8E%E5%AF%8C%E5%A4%AA%E9%83%8E
に載っていますのでお時間のある時にご覧になってください。

また、**博士の生まれた日 4 月 24 日は「植物学の日」**とされています。この日は高知県立牧野植物園では「牧野富太郎生誕記念　マキノの日」として、無料開園を今年は行いました。
詳しくは　https://www.makino.or.jp/event/detail.php?id=650　をご覧になってください。

○「なんじゃもんじゃ」ってどんな樹？

４月～５月にかけて、街路樹やあちらこちらの公園で白い花を咲かせる樹があります。和名は「**ヒトツバダゴ**」、別名は「**ナンジャモンジャ**」と呼ばれています。障害者スポーツセンターの横にも植えてあるので、お気付きの方も見えるでしょう。

ウィキペディアで調べると

「特定の場所に生えている見慣れない立派な植物、怪木や珍木に対して地元の人々がつけた愛称。すなわち、特定の植物の種名ではない。ヒトツバダゴを指すことが多いが他の樹種の場合もある。」

とされています。

ヒトツバダゴのほかには、ニレ、イヌザクラ、クスノキ、クロガネモチ、ボダイジュなどの様々な樹がナンジャモンジャと呼ばれています。

「ナンジャモンジャ」と称される理由についても、いくつかの説があり、なかには水戸黄門が登場する説もあるとのことです。

左の画像は上社小の隣、上社公園のヒトツバダゴです。ベンチの大きさと比べても立派な大きさと言っても良いでしょう。まさに「ナンジャモンジャ」です。

○何か妙なものがぶら下がってました。

下見のときに、見つけました。大きさは５ミリ位。

正体は、**チビアメバチ**の仲間の繭（まゆ）らしいとのことです。

チョウやガの幼虫に寄生する小さなアメバチでこのようにぶら下がる繭を作り、成虫でも、大きくても 5～10 ミリちょっと、と大変小さな蜂です。

寄生バチの仲間は大変種類が多く、特定の幼虫にだけ寄生する種類もいるとのことですし、それだけ寄生されている幼虫たちも多いということです。

自然界のつながりは、まだまだ分からないことだらけです。

〇ヒメコウゾあれやこれや

その１・雌雄同株で異花

ひとつの株に雄花と雌花が別々に咲いています。

左の画像の上のほうについているウニの棘ような細い糸のようなもの（雌しべです）で被われているのが雌花。

下のほうにボンボリのように下がっているのが、雄花です。花粉のついている雄しべにおおわれています。

夏に直径 1.5 センチくらいのオレンジ色～赤く熟した実を付け、食べられます。

よく似た仲間にクワやカジノキ、コウゾがありますが、雌雄異株なのでこの点で区別がつきやすいポイントです。

その２・間違えられた（？）学名

和紙の原料として使われるコウゾは、このヒメコウゾとカジノキという樹の交配でできました。それぞれの学名（生き物についている万国共通の名前）は、

・ヒメコウゾ：Broussonetia kazinoki
・カジノキ　：Broussonetia papyrifera
・コウゾ　　：Broussonetia kazinoki ×　Broussonetia papyrifera

とされています。読んでみると、おかしなことに気づきませんか？
ヒメコウゾの学名に kazinoki（カジノキ）と入っています。

この事は、この学名をつけた江戸時代に日本の動植物を調査し、海外に紹介した有名なドイツ人医師シーボルトの付け間違いとされています。そのまま、今日までこの学名がつかわれているのですが、近年、シーボルトの残した原標本（一番もとになる標本）がどうやら「ヒメコウゾではない」らしく、今後の成り行きを見守りたい所です。

〇タンポポの花に色々な虫たちが来ていました。

ハナアブの仲間

セイヨウミツバチ

ベニシジミ

ナミアゲハ

キタキチョウ

花そのものを食べる輩(やから)も

この綿毛の一つ一つが花

タンポポのお花畑も美しい！

タンポポは小さな花が集まった頭状花を作ります。

咲き終わった花の茎はいったん倒れ、種が成熟して、綿毛を飛ばす時期になると、再び立ち上がり、より高い位置まで茎を伸ばし、綿毛がより風に飛ばされやすいようにします。

大きく分けて、ニホンタンポポとセイヨウタンポポがありますが、ニホンタンポポはより自然度の高い土地に生え、セイヨウタンポポは造成地など人の手が入った土地に生えやすい性質があります。

これは、この２種の生活サイクルの違いによる生存方法が異なるためのもので、お互いが競合して、駆逐しあうことではないとのことです。詳しくお知りになりたい方は、

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%83%9D

を引いていただくと良いでしょう。

〇テンナンショウの仲間は性転換して、虫たちに罠を張る！？

左の画像は**ウラシマソウ**の雄花の拡大図です。下部の〇印に隙間があり、中に入った虫が花粉を付けて抜け出せるようにしています。

替わって雌花にはこの隙間はありません。花粉を付けた虫たちが逃げられないように閉じ込めます。中で動き回って雌しべに花粉を付けて欲しいからです。

虫たちにとって雌花は恐ろしい罠です。

この仲間（テンナンショウ属と呼ぶ）にはもう一つの特徴があります。

球根（根茎）の大きさによって、雌株になったり、雄株になったりします。大きい球根は雌株になり雌花を咲かせ種をつくり、小さい球根は雄株になり雄花を咲かせ花粉をつけます。一生のうちに何回か性転換をするのです。今年は雄株だけど、去年は雌株だったということがあります。

ウラシマソウの花

カラスビシャクの花

左はウラシマソウ、右は**カラスビシャク**の花です。

カラスビシャクはテンナンショウの仲間と同じサトイモ科の植物ですが、ハンゲ属といわれる別の仲間になるので、花の形はよく似ていますが、性転換は行いません。雌雄同株です。

〇ムラサキシキブの葉にこんなのが付いていたら・・

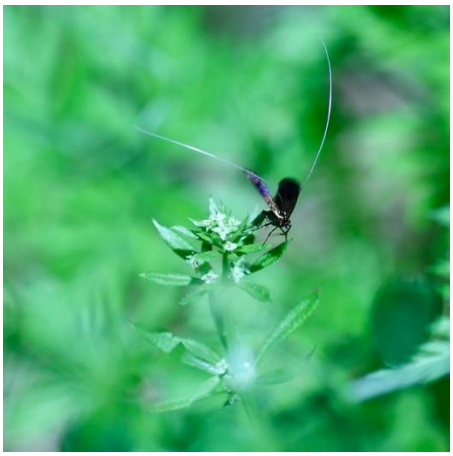
濃い茶色で丸っこい扁平な体おまけに縁の方は透明な姿。

始めて見たときは一体何者？と思っちゃいます。

これは、「**イチモンジカメノコハムシ**」と呼ばれるりっぱな甲虫（こうちゅう）の仲間です。

ハムシは葉虫で、葉っぱによくいるのでこの名がつきました。日本には約 800 種がいるそうです。決まった樹によくいる種類もあり、種類の特定のヒントになります。

〇昼間ふわふわパタパタ飛ぶこんな虫を見かけたら・・



春先に見かけます。

ふわっというか長い触覚を揺らしながら飛んでいます。

名前は「**クロハネシロヒゲナガ**」。ヒゲナガガ科（漢字だと鬚長蛾科）と呼ばれる蛾の仲間で、開張 13～15 ミリの小さな蛾です。

画像は雌。雄はもっと長い触覚を持っています。クロハネと名前が付いていますが、光の加減でしょうか、金色の翅を持っていますので、出会いましたらよく見てあげてください。

○トリカラーの綺麗な花は外国産！

春の時期にこの仲間（アヤメ科）で最も早く咲く花のひとつです。名前は**シャガ**。

遠い昔（室町時代という説もある）に中国から伝わったとされる帰化植物です。３倍体のため種が出来ず、株分けによって増えるため、この花が生えているところは、かつて人が入り込み、人為的に植えられた可能性が高い場所となります。

元々、この名は「ヒオウギアヤメ」につけられていた名前らしく、人に伝えられるうちに、この花の名になってしまったとのことです。別名は「胡蝶花」ともいいます。

アヤメ科の草花の葉は、よく見ると根元から二つ折りになったまま伸びています。ということは普通の植物の葉の裏面の部分が、両面とも表に出ていることになりますね。どうしてこんな発達をとげ進化したのでしょう。興味深いことです。

この仲間はこれから**アヤメ**（畑や庭）　→　**カキツバタ**（１年中水に浸るところ）　→　**ハナショウブ**（花の時期に水が豊富にある所）の順に花が咲きます。

育つ環境も異なっていますので、比べてみても面白いと思います。

○観察会では他にもこんな事を観ながら聴きながら話しながら歩きました。今回参加された小学生はキノコ博士でした。キノコを見つける眼にみんなビックリ！「**スエヒロタケ、テングノメシガイ、クロチャワンタケ**ほか」など見つけてくれました。

・ツバメやスズメは人里の鳥
・クサギやヤマコウバシ、イヌザンショウ、カラスザンショウの葉の香り
・虫こぶのいろいろ
・キリの花
・色々なガの幼虫たち（尺取虫など）
・ヤブニンジン、オヤブジラミの花と実
・ヒメクロオトシブミの作った揺籃（ようらん）。
・キビタキ（夏鳥）の美しいさえずり
・ドクダミは十薬と呼ばれる薬草で日本３大薬草の一つ
・キランソウはジゴクノカマノフタの別名がある　　などなど

キビタキの雄

この時期の猪高の森は
http://sizen.ciao.jp/observation/20220424itaka.pdf
http://sizen.ciao.jp/observation/20210425itaka.pdf
にも紹介していますのでご覧になってください。

次回観察会は　５月 28 日（日）9：30～　森の集会所集合です。
ハプニングを大事にする観察会です。一緒に歩きませんか？